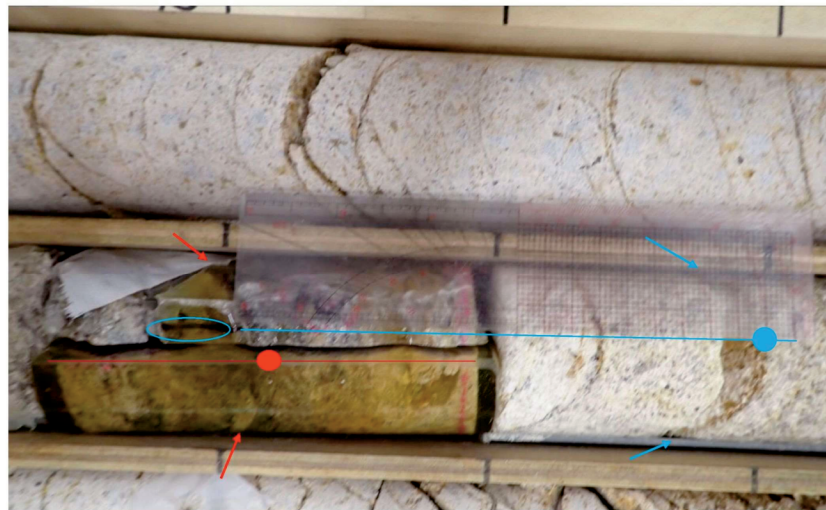


H24-B14-1深度43.19~43.62m 走向・傾斜 (No.157-追3) を変更

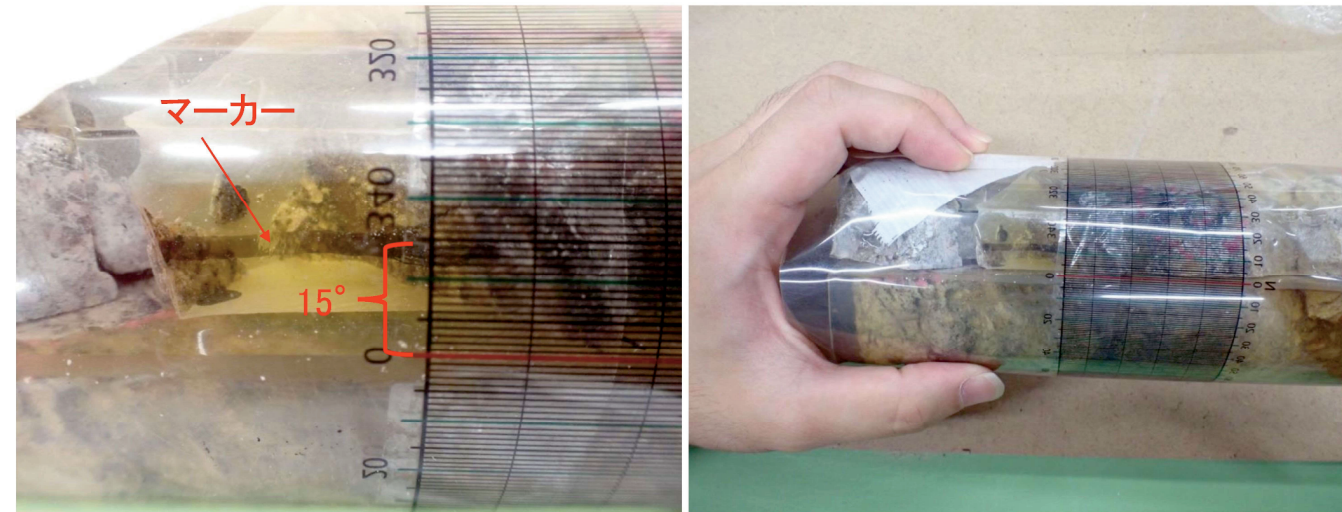
- 姿勢の復元に使用する走向・傾斜が既知の面と最新活動面の姿勢の差を確認し、見かけの走向の差15°、見かけの傾斜の差0°を得た。

<見かけの走向の差の計測>



赤丸、水色丸位置が各面のコアにおける楕円の頂点
水色面の長軸位置を研磨片上に黒線で記入(水色枠)。
赤色面の長軸は切断面と一致。

赤色面: 走向・傾斜を求めたい最新活動面
水色面: 姿勢の復元に使用する走向・傾斜が既知の面

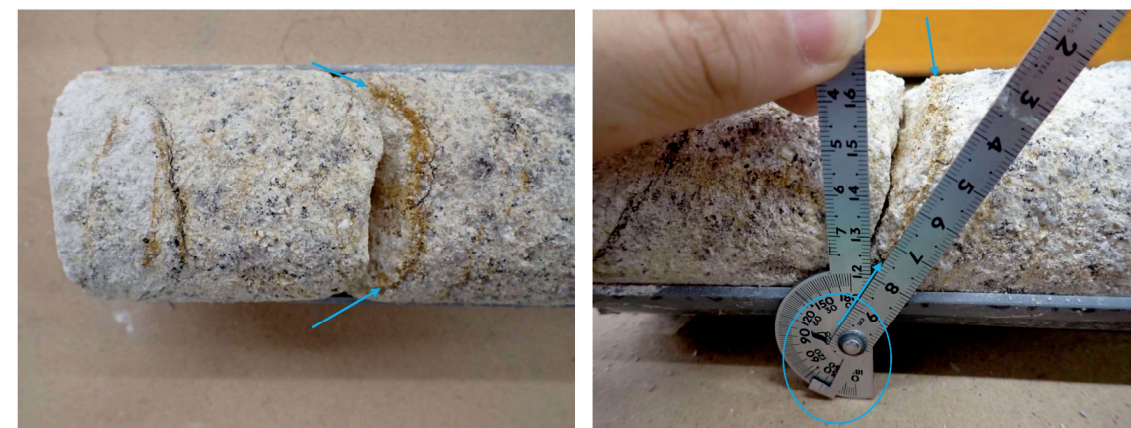


切断面とマーカ(赤丸と水色丸の差)は15° である。

<見かけの傾斜の差の計測>



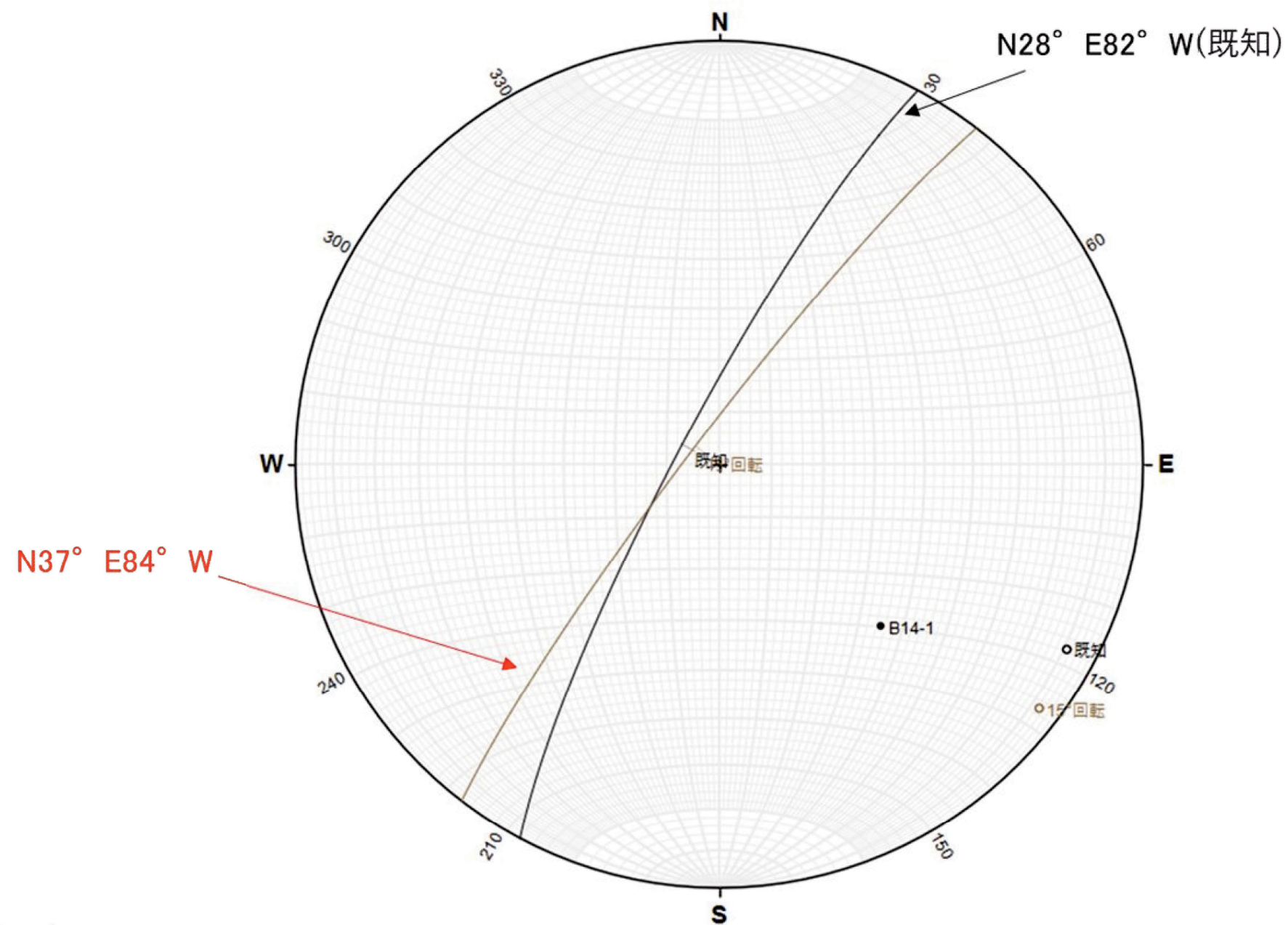
最新活動面(赤矢印の面)のコアにおける見かけの傾斜は30° である。



姿勢の復元に使用する面(水色矢印の面)のコアにおける見かけの傾斜は30° であり、最新活動面と見かけの傾斜は一致する。

H24-B14-1深度43.19~43.62m 走向・傾斜 (No.157-追3) を変更

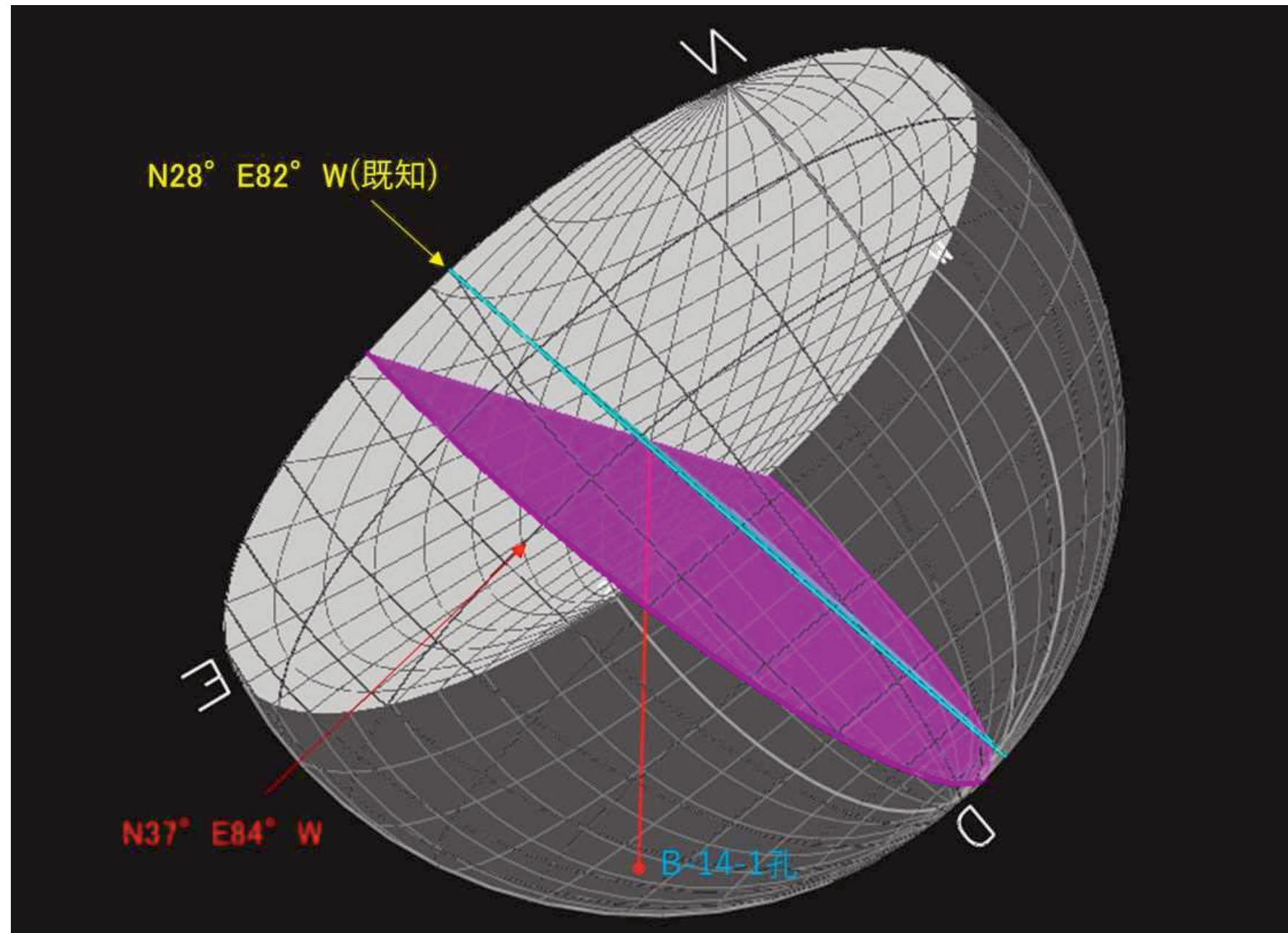
- H24-B14-1孔 深度43.19~43.62mの破碎部の最新活動面の走向・傾斜を、走向・傾斜が既知の割れ目の姿勢から復元を行った。
- 走向・傾斜が既知の割れ目 (N28°E82°W) を、最新活動面の見掛けの傾斜角の差0°、最大傾斜方向のなす角15°回転し、最新活動面の走向・傾斜 N37°E84°Wを推定した。



凡例
 既知: N28° E82° W
 15° : 既知の面を最大傾斜方向のなす角15° 回転させた面の走向・傾斜(最新活動面の走向・傾斜推定値)(回転軸:)

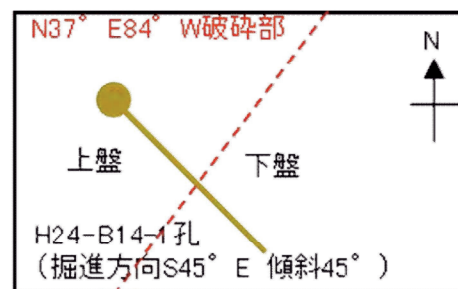
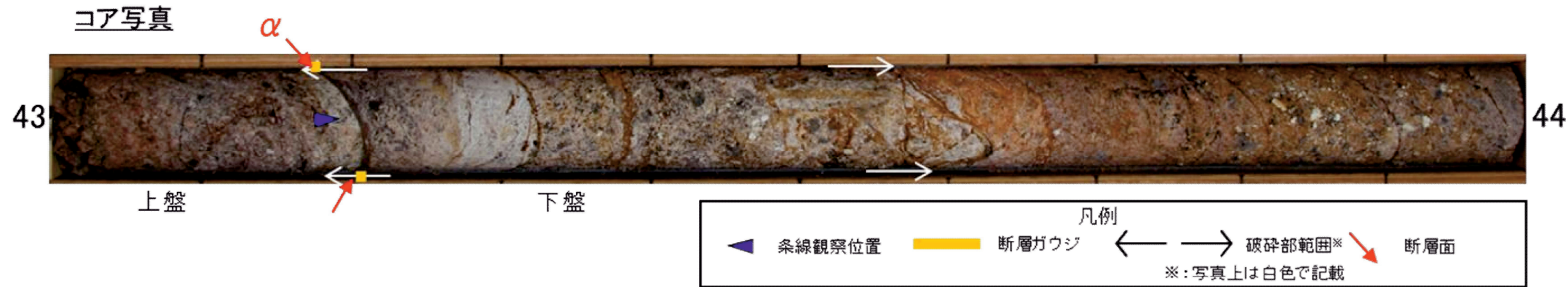
H24-B14-1深度43.19~43.62m 走向・傾斜 (No.157-追3) を変更

- H24-B14-1孔 深度43.19~43.62mの破碎部の最新活動面の走向・傾斜を、走向・傾斜が既知の割れ目の姿勢から復元を行った。
- 走向・傾斜が既知の割れ目 (N28°E82°W) を、最新活動面の見掛けの傾斜角の差0°、最大傾斜方向のなす角15°回転し、最新活動面の走向・傾斜 N37°E84°Wを推定した。



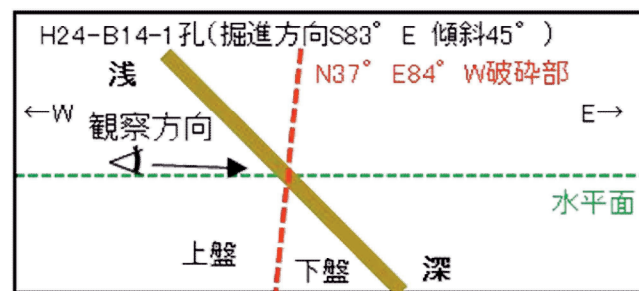
H24-B14-1深度43.19~43.62m 走向・傾斜 (No.157-追3) の変更に伴い, 条線 (No.157-追4) を変更

- H24-B14-1孔 深度43.21mの断層面の走向・傾斜はN37°E84°Wであり, 条線観察は上盤側から実施している。



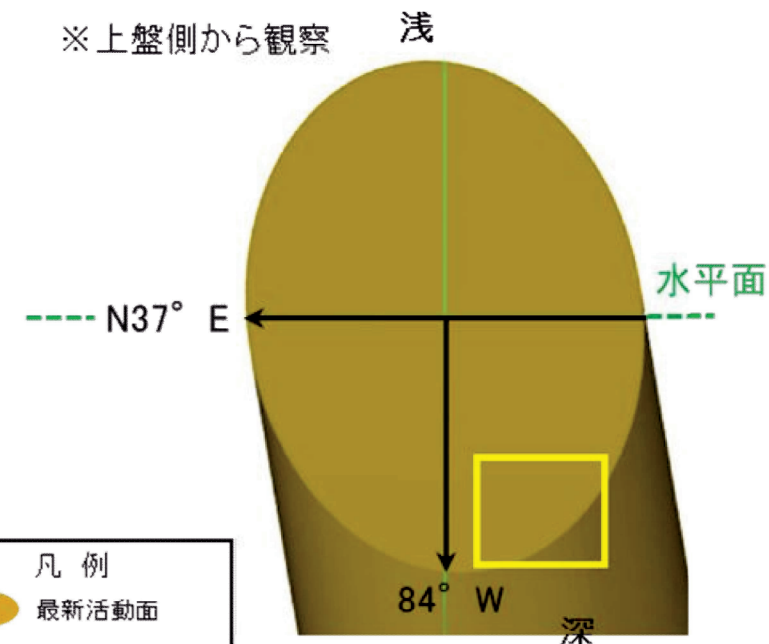
- ボーリングは掘進方向S45° E, 傾斜45° で掘削している。
- 破碎部の走向・傾斜はN37° E84° Wであり, ボーリングと破碎部の平面的な位置関係は左図のようになる。
- 破碎部は北西傾斜であることから, 北西側が上盤, 南東側が下盤となる。

図1 H24-B14-1孔位置平面図(模式図)



- ボーリング(掘進方向S45° E, 傾斜45°)と破碎部(走向・傾斜N37° E84° W)をボーリング孔沿いの断面図で示すと左図のようになる。
- ボーリング孔の浅い側が上盤, 深い側が下盤となる。

図2 H24-B14-1孔を通る断面図(模式図)



※図2で示した観察方向から, 最新活動面に正対して描いた3次元的な図

図3 最新活動面と走向・傾斜の関係図